



# のっぽの手

発行: ふくしまNPOネットワークセンター

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビル  
TEL 024(528)1211 FAX 024(528)1218  
E-mail center@f-npo.jp  
URL http://www.f-npo.jp/

## 「Thanks Heaven, Jyouhou-Station」 ～ふくしま情報ステーションの展望～



「開いててよかったあ～」のキャッチフレーズで有名なセブン-イレブンが日本に出店したのは、1974年5月。実験的に進めた24時間営業も成功し、店舗数を拡大していました。日本上陸前のアメリカでのキャッチフレーズは「Thanks Heaven, Seven Eleven」（セブン-イレブンありがたい）。当時、深夜営業しているコンビニエンスストアは、開いているだけで消費者のハートを掴み、感謝されました。しかし、消費者のニーズの多様化やコンビニ業界同士の競争が激化するなど、厳しい時代となっているようです。

さて、今回いただいたテーマは「ふくしま情報ステーションの展望」ですが、職員になって2ヶ月の私にとって、少ない経験からお伝えできることがあるとすれば、一つのテーマと一つの想いということでしょうか。

一つのテーマは“郷土愛にふれあう空間づくり”です。福島市のありのままの姿をありのままにお伝えする作業を丁寧におこなうことが、何よりも大切だと実感しています。

名所も温泉も、あのまちもこのまちも、どれもが私たちが住んでいる愛すべき福島市であり、郷土なのです。市民が自ら楽しむも良し、観光客の皆さんのが遊ぶも良し、訪ねてこられた皆さんに、私たちスタッフは福島に誇りを持ち「ご案内」をとおしたふれあいの中で、“郷土愛にふれあう空間”を創っていきたいと考えています。

また、一つの想いとは、利用者の皆さんはもちろんのこと、協働している行政とNPOも「情報ステーションが、あってよかったあ」という声を聞くことができればという、ピュアな想いです。私はこの情報ステーションで、皆さんのニーズに寄り添いながら、宝物に出会いたいと思っています。ここでいう宝物とは「ありがとう」という言葉だったり、リピートしてくださる「笑顔」だったりと、ほんとうに温かいものばかりです。「Thanks Heaven, Jyouhou-Station」この言葉は、利用者のものではなく、私たちスタッフの言葉であることに気づかされたのは、私にとってとても貴重な発見でした。

さらに情報ステーションは、福島市の観光案内を基本に進めていく一方で、「まちの駅」の視点から、さまざまな活動の展開への可能性を持つ、地域づくりには魅力ある「場」の一つなのではないかと大いに期待しています。

冒頭で書き出したコンビニのように「開いててよかったあ」という単純明快な満足感と合わせて、人のぬくもりを通わせるこの空間に、利用者も私たちスタッフも、飽きることのない活動を持続させていくことが情報ステーションの使命であり、協働の中でNPOが果たす役割という意味を持っているのだと思います。わずかずつではありますが、その積み重ねが社会貢献の一翼となることを信じています。

(ふくしま情報ステーション 齋藤 美佐)

## 市議会議員さんとNPOとの望ましい関係とは

### 第48回NPO研究会報告

4月9日ウィズもとまち



#### NPO側パネリスト

大竹隆（シャローム）、斎藤喜章（飛行協会）

長澤祐嗣（エフ・スポーツ）、吉野裕之（子do権）

清水修二（ふくしまNPOネットワークセンター）

#### 市議側のパネリスト

阿部儀平、大太平洋人、小熊与太郎、佐久間行夫、佐藤一好、丹治智幸、丹治仁志、

西方正雄、早川哲郎

今回は研究会の趣向を変えて、福島市議会議員の会派「みらい福島」の9人のメンバーと県北地方で活躍するNPO関係者とが一堂に会して、ともにより良い社会を築いていくという視点から、議員さんとNPOの望ましい関係のあり方を巡って議論をしてみました。市議会議員は市民から選ばれた市民の代弁者であり、本来的には市民活動を担うNPOともっと近い存在であるべきはずですが、必ずしも意思の疎通が十分図られてこなかったことを切に感じました。

中間支援NPO活動のひとつに、「アドボカシー」という重要な任務があります。現場のNPOが直面する困難性などに関して、NPOの立場から、主義主張や政策提言などを行っていくことです。このところ、協働という言葉が脚光を浴び、「アドボカシー」はやや影を潜めていますが、今回の研究会では「アドボカシー」に光を当ててみました。もちろん、協働は重要なテーマであり、たとえば行政との協働によってより良い社会を実現することは大切です。しかし、その協働において一方の主体者となるべきNPOが置かれている現状をつぶさに見ていくと、NPOがもっと活動できるよう諸環境条件を整える必要があることも確かです。行政面における協働は進みつつありますが、NPOがより力強く活動できるような環境整備を求めて、たとえば立法（条例づくり）などにどのようにNPOの意見を反映させていくことが可能なのか、市議さんと率直に意見を交わしました。多くの参加者から、こうした催しは継続してやって欲しいという要望が寄せられました。

NPO関係者から出された意見の中で印象に残った点は、行政が協働という美辞麗句の反面でNPOとの協働を経費の削減として見ていたり、お互いに汗をかいて協働で事業を進めるよりは単なる丸投げになっていることへの強い不満があるという問題です。また、それを聞いた議員さんから、経済的視点が最優先されつつある現状の協働のあり方への驚きの声が上がったり、別の議員さんは市民参加型の政策提言の必要性について意見が述べされました。フロアーからは、市川市のようなNPOへ税金の1%を寄託する制度の提案や人口減少下での新庁舎建設を疑問視する意見が述べされました。（星野珙二）

## 人のお役に立ちたくて ～福島市市民活動サポートセンター新スタッフ紹介～



5月より福島市市民活動サポートセンターに勤務いたしております西坂です。趣味はドライブと水泳です。

以前からボランティアやNPOに興味があり、自分の出来る範囲内で参加しています。少しではありますが、人のお役に立てることが嬉しいです。

サボセンのスタッフとして市民の皆さんと一緒にNPO活動に参加でき、その活動が地域をより良くし、笑顔の溢れる街になるよう頑張りたいと思います。よろしくお願ひいたします。

（西坂 知佳子）

## ふくしま花案内人として



ふくしま情報ステーション 鈴木光子

昨年、福島市が主催する第4期花案内養成講座受講生の募集があり、私は10月から、8回の講座を受講し、花案内人として認定をいただきました。

これは、花や福島市のことについて学び、福島市内の花の名所などで福島を訪れたお客様をご案内し、福島市の良さをPRするボランティアのことです。

このボランティアのことは、以前から知っていましたが、現在「ふくしま情報ステーション」に勤務していて「私が住む福島のことをもっと知りたい。そして他の街から、いらしたお客様に、福島市のことを使いこなすことをもっと伝えたい。」との思いもあり受講いたしました。

実際の活動は、花見山がもっとも美しいこの3月末から4月に亘って行い、周辺に咲く花の種類や特徴、花見山ができるまでの経緯、福島市内などの観光情報を伝えました。

私は、この花案内人の活動を通して、改めて「福島市の恵まれた自然の豊かさ」に驚き、阿部さん親子の「美しい花をみんなに楽しんでほしい」との思いや「福島には、まだまだたくさんの宝がある」ことなど、花を通じて触れ合う中で、様々な発見があり多くを学ぶことができました。

これからも、さらに福島市の魅力を知って、訪れる人たちが求めるニーズに正確、的確に応えられるよう日々こころがけていきたいと思います。

そして、お互いに情報を共有しながら、おもてなしの気持ちを大切に「人が集う拠点・まちの駅 ふくしま情報ステーション」ならではの情報を発信していきたいと思います。

## 「愛」のメッセージ ふくしま情報ステーション 斎藤美佐

先日、山形県米沢市の白布温泉に浸かってきました。湯船からの新緑が目にやさしく、いいお風呂でした。昨年1年間の、日本を訪ねた外国人観光客の目的の第1位が「温泉」になったという報道にも納得できます。その施設で仕事に役立ちそうな、会津・新潟・山形の広域マップもゲットして、久しぶりにご機嫌な休日となりました。

さて、道中、米沢市に入ると「大河ドラマ天地人」と書かれた“のぼり旗”が誇らしげに老春の風にゆらいでいました。そこではじめて2009年のNHK大河ドラマは、「直江兼続」を主役に描いた『天地人』であることを知りました。

直江兼続は上杉謙信の弟子で、戦国時代のさなかに兜の前立に“愛”という文字をかがげて生き抜いた武将です。その兜の文字は、上杉謙信の「義を貫く」という教えのもとに、兼続が主君、民、そして家族のために「愛」を貫く生き方を志した証でもあります。

「利を見て、義を聞かざる世の中に、利を捨て義を取る人」。「利」になびかず、「愛」を貫いた戦国時代の兼続の生きざまには、利益の追求が当然の原理とされる現代に、どのようなメッセージが残されているのか、いまから興味を惹かれます。

きっと、失われつつある日本人の品格の取り戻し方や、「利」と「想い」の狭間で悩むNPOに、問いかけるようにヒントや答えが、このドラマに見い出せるのかもしれません。主役の直江兼続役を妻夫木聰さんが演じるのも楽しみです。

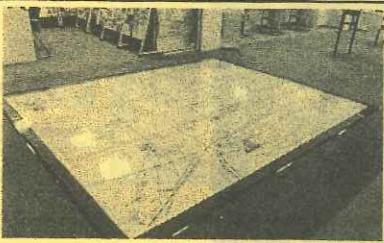
来年は、先日訪ねた温泉地もドラマの宣伝効果でさぞや混雑することでしょう。



## ふくしま情報ステーションから

### ◆足下にご注目!!～大型地図カバーリニューアル報告～◆

4月27日（日）19時～21時、ふくしま情報ステーション前の大型地図のカバー掛け替え作業をおこないました。クリアになり地図が見やすくなりました。



また、バリアフリーを考慮した枠を装着したので、安全も確保されました。皆さまから「こんなのがあったっけ？」という声が届き、存在感のアピールにも成功したようです。

※詳細は <http://www.machi-fukushima.jp/> または下記までお問い合わせください。

TEL 024-525-4020 E-mail : [info@machi-fukushima.jp](mailto:info@machi-fukushima.jp)

## 福島市市民活動サポートセンターから

### ◆市民活動サポートセンター運営協議会が開かれました◆

平成20年度市民活動サポートセンター運営協議会が、平成20年6月6日（金）市民会館で開催されました。

現在活動している団体は勿論、NPO法人を取得しようとしている団体等のサポートの強化と、市民活動の啓蒙運動を活発にし、広報・PR活動を積極的に行なっていく事など、より良い市民活動のために様々なご意見、ご提案を頂きました。

今後も市民の皆様の活動の拠点として、皆様のお役に立って生きたいと思います。（西坂）

福島市市民活動サポートセンター TEL 024-526-4533 / E-mail : [f-ssc@bz01.plala.or.jp](mailto:f-ssc@bz01.plala.or.jp)

## ふくしまNPOネットワークセンターから

### 第49回 NPO研究会

6月22日（日）17時30分～19時 コラッセふくしま 5F研修室

講師：NPO事業サポートセンター 田中 尚輝 氏

「NPOは社会変革をなしえたか—NPO10年の決算書」

### 2008年度総会

7月12日（土）午後予定 福島大学サテライトチェンバ大町

詳しくは、後日会員各位にお知らせいたします。

「のっぽの手」では誌面充実の為、理事、職員はもとより、会員様、各団体様よりの投稿をお待ち申し上げております。当センターへのご意見、日頃の活動に関する事、はたまた「よもやま話」などございましたらぜひ下記宛にお寄せいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

ふくしまNPOネットワークセンター事務局 <http://www.f-npo.jp/>

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビルB1

TEL 024-528-1211 FAX 024-528-1218

E-mail [center@f-npo.jp](mailto:center@f-npo.jp)

福島市市民活動サポートセンター <http://www.f-ssc.jp>

ふくしま情報ステーション <http://www.machi-fukushima.jp/>

